



中村忠平先生を偲んで

弔 辞

中村先生！いつもなら、軽く手を挙げて、「やあ、どうも、どうも」と笑顔で答えて呉れるのが常でした。そんな中村先生の笑顔には、私は何時でも、何となく心温まる思いがしたものでした。

中村先生は、若い頃から、人一倍「ご健康」であり、風邪一つひいた事がなく、その歩く姿は本当に格好よく、背筋を「ピン」と伸ばして、しかも歩みのテンポが速く、先生と一緒に歩いている時は、ついに行くのがとても大変な有り様でした。

今でこそ、「歩く事は、健康に良い事」として、誰もが認めて一大ブームを引き起こしておりますが、中村先生が歩き始めた頃は、まださほど注目されてはいませんでした。

そのような時でも「健康を保つには、歩く事が一番だ」との信念を持って、数十年も前から、毎日欠かさず実行していたようでした。

先生は、この「毎朝の歩く習慣」を自分一人だけのものとせず、それを近隣の方々にも呼びかけて、長年につけて続けて来たことを聞くにつけ、その実践力と持久力の素晴らしさに、常々感動致し居りました。

そんな、人一倍健康だった中村先生が、今忽然とこの世を去って仕舞ったことは、本当に信じがたく、誠に悔やんでも悔やみ切れない痛恨の極みと言わざるを得ません。

みにたえません。

先生との出会いは、昭和二十三年十一月、中部学童珠算競技大会でした。

恩師、林一雄先生の下、連続優勝を目指していた田町小学校の生徒を率い、選手控室にいたところ、先生が、西豊田小学校の生徒を引率して来られ、選手たちに競技に対する注意を、懇ろに諭されていたお姿を見て、先生の並々ならぬ情熱に感動いたしました。

案の定、私たちの連勝の夢は果敢なく消え、西豊田小学校が優勝、三年連続優勝が始まり、全国区でも大活躍が続きその名を轟かせました。

昭和二十六年、協会理事を皮切りに、役職を歴任され、昭和五十二年、全珠連支部長、協会会長に就任、「対話」と「協調」をモットーとして運営に努力され難問解決に尽力されました。

昭和五十五年、本部理事に就任、全国を舞台にした活躍をされました。退任後は、本部参与、協会顧問として私たちを導いて下さいました。

学校関係では、静岡雙葉高校、静岡工業高校、静岡市立高校、静岡女子高

本部参与で支部顧問の中村忠平先生が二月六日(月)早朝ご逝去されました。二月九日(木)にご葬儀があり静岡県支部より支部長の小林正隆先生、尾崎速算学会会長の尾崎勝彦先生、静岡地区を代表して朝比奈博先生が弔辞を読まれました。尾崎勝彦先生は、中村忠平先生に思い出を噛みしめながら語り掛けられていました。

なお、小林正隆先生と朝比奈博先生は弔辞を読まれましたのでお二人の弔辞を掲載させて頂きます。

弔 辞

謹んで故中村忠平先生の御霊にお別れの言葉を捧げます。

昨年末、静岡市民文化会館で行われた「全国珠算研究集会」に先生は欠席されました。

お尋ねしたところ、よんどころない事情の為でお元気とのこと、又、一月の検定試験でもお元気なお姿を拝見し安堵しておりました矢先の訃報、悲し

平成二十四年二月九日

社団法人静岡県珠算協会

会長 小林正隆